林業相談

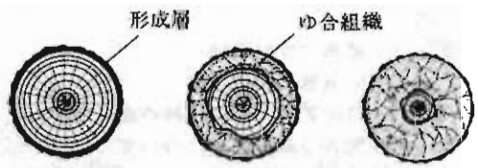
枝の切り口の処置について

問　最近，道路標識などの増設にともなって，これらの障害となる街路樹の枝や幹の一部が夏期によく切り除かれ，切り口から樹液がにじみ出ていますが，このまま放っておいてよいものか，またどのような処置を施さなければならないかについてお知らせ下さい。（千歳市N生）

答　ゆ合組織

樹木は生理上，枝を切っても良い時期と悪い時期とに分けられます。適期は樹木が休眠状態にある冬から早春にかけてで，一部やむをえず生長期に行う場合は軽度のせん定にとどめておきます。一方樹木の生長時期に太い枝などを切ると樹液がにじみでて，このまま放っておくと，切り口が病虫害などの誘因となって樹木を枯らすことがあります。休眠期の冬から早春にかけてせん定を行うと樹木の生長にともない，切り口の断面にある形成層が盛り上って，ここに新しい樹皮が再生されて切り口を覆い，外部からの病虫害などの侵入を，みずからの力で防ぎます。このように傷害部に対して新しく作られる皮部組織を一般にゆ合組織とよんでおります。

街路樹は地上施設と競合した場合，その障害となる枝や幹の一部を取り除くことが多く見うけられます。これら地上施設の設置時期はいずれも7月～8月に行う例が多く，したがって樹木の枝切りなども，生長の旺盛な夏季に行う傾向があります。この時期に枝や幹を切り取って，そのまま放っておくと樹木を衰弱させる原因ともなりますので，切り口の断面を保護して，ゆ合を早めるために適切な手当てを必要とします。



ゆ合の経過

手当ての方法

太い枝や幹はのこぎりで切断しますが，切り口が粗面となり海綿状態になっているため，樹液や雨水がたまりやすくなり，その部分が腐朽してきますので，切り口に「接ろう」を塗布します。この接ろうは液体状のものを筆でぬり付けますが，数分後には固まって樹液や雨水の停滞などを完全に防ぐことができます。この接ろうの作り方は，松脂5，白ろう3，豚脂1（いずれも薬局で市販）の割合に配合し，空きかんに入れて溶かしたものをもちいますが，この場合，溶ろう器に入れて使用すると作業に便利です。このほかコールタールやペンキを塗布することも，腐きゅう菌の進入を防除する1つの方法ですが，気温が高くなるにつれ，これらの塗布した材料が溶け落ちたり，悪臭をはなって，かえって景観をそこねることがあります。

なお，街路樹を育てるため，枝や幹の一部を切る作業はできるだけ休眠期の冬から早春にかけて行うよう心がけるべきです。

（樹芸樹木科　斎藤　晶）